ゆめじゆうや

こんな夢を見た。

腕組をして枕元に坐っていると、仰向に寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女 りんかく やわ うりざねがお 輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。真白な頬の底に くちびる 唇の色は無論赤い。 温かい血の色がほどよく差し て、 とうてい死にそうには見えない。 かし女は静かな声で、もう死にますと判然云った。 自分も確にこれは死ぬなと思った。 と上から覗き込むようにして聞いて見た。死にますと こで、そうかね、もう死ぬのかね、 も、と云いながら、女はぱっちりと眼を開けた。大きな潤のある眼で、 長い睫に包まれた ひとみ その真黒な眸の奥に、自分の姿が鮮に浮かんでいる。

自分は透き徹るほど深く見えるこの黒眼の色沢を眺めて、これでも死ぬのかと思った。 それで、ねんごろに枕の傍へ口を付けて、死ぬんじゃなかろうね、大丈夫だろうね、とま た聞き返した。すると女は黒い眼を眠そうに一般なまま、やっぱり静かな声で、でも、死ぬ んですもの、仕方がないわと云った。

> 瞬たまま、 なはっ なつめそうせきなつめ そうけ と云いながら、女はぱっちりと眼を開けた。と上から覗き込むようにして聞いて見た。死 うね、 輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。 な声 ある眼で、長い睫に包まれた中は、 は こんな夢を見た。 死 0 な声でもう死にますと云う。 腕組をして枕元 に底に温 これ 分は透き徹るほど深く見えるこの黒眼 その真黒な眸の奥に、 X でうせき 石き とまた聞き返れ 口を付けて、 なと思った。 とうて でも死り もう死にますと判 か い 7

そこで、

そうかね、

もう死

X

0 か

ね

死にますとも

大きな潤

0 V

血

12

坐

つ てい

ると、

仰點

向き

に寝た女が、

女は

長い

髪を枕に敷

4

て、

の色がほどよく差して、

唇の色は

無

真白、

な

死にそうには見えない。

しか

し女は

静

か

然云った。

自

分も確にこれ

仕方がな い わと云った。

やっ

ぱ

ŋ

静かな声で、

でも、

死

ぬんですも

0

\$

0

かと思った。

それ

で、

ね

んごろに枕

0

色沢を眺る

め

自分の姿が鮮に浮かんで

1 、 る。

ただ一面

に真黒であ

死

ぬんじゃ

なかろうね、

大丈夫だろ

L た。

すると女は黒

眼を眠そうに

ζ, 4